



小さな個体はひと飲み。
大きなお腹の中は、
おそらく食われた幼生が！



←↑トウキョウサンショウウオの幼生
全長約3cm (H21.4.26 岩舟町)



共食いで成長する

トウキョウサンショウウオ続報

産卵地救出作戦 成功！



清掃前の様子

4月19日、前回紹介した佐野市の天然記念物であるトウキョウサンショウウオの産卵地の保全活動が、田沼高校近くの「栃本公園」で行われた。佐野市の広報で参加者を募ったせいか、家族連れなど30名を超える有志が集まり、佐高からも生物同好会員3名がスタッフとして協力してくれた。



ここは、かつては数百を超える卵のうが見られる大産卵地だったのだが、10年くらい前からテレビや古タイヤ、自転車などの粗大ゴミ、建築資材や注射針などの産業廃棄物が捨てられるようになり、年々その数が増えていたのだ。そのため、産卵できる場所が少なくなり、最近の産卵数は数十レベルに激減していた。



運び出したゴミ

清掃作業は1時間以上に及び、湿地に沈んでいたゴミを運び出す力仕事であったが、佐高生は率先して湿地に入り、黙々と作業をこなしていた。参加者は充実感を感じてくれたようだ。それにしても、次から次へと湿地から湧き出てくるようなゴミの多さには一同、驚きと怒りを感じていた（左の写真）。

はたして、来年は、蘇った産卵地でどのくらいの産卵が見られるのだろうか。もし、今年の参加者が来年、その成果を確認してくれたら、今回の保全活動の意義はとてつもなく大きなものになるだろう。こんな活動ができたこと自体すごいことなのだが、それに協力してくれた佐高生に感謝している。



清掃後、きれいになった産卵地



産卵地にいたオスの成体



清掃作業後の観察会